



ツインリンクもてぎを見学



もてぎ職員から説明を受ける学生たち



ASIMOとの対面に感激



バイクの展示も見学

トップが語る 『インサイト』秘話

この授業に参加している学生のために、『インサイト』関係者が明治大学で講義を行いました。開発責任者の関氏をはじめ、営業担当の井口氏、

「ハイブリッド」とは、2つを1つに合わせるといふ意味で、この車には通常のガソリンエンジンとともに電気でも動くモーターも装備しています。いわゆる今話題のエコカーです。現在、日本におけるハイブリッドカーの割合が増えており、エコが注目される今、こうした車に寄せられる期待は大きいと言えます。実際の授業は、テレビや新聞に多く取り上げられています。

エコカーはもっと売れる
在、若者の車離れが進んでいます。そこで、大学生発の意見がほしいホンダと、現場で使える問題発見力を養いたい明治大学商学部の考えが一致し、この授業が開講されることになりました。授業の題材は、ホンダが開発した新型ハイブリッドカー『インサイト』です。若者の車離れに対し、その中心とも言える学生たちが自ら問題を発見し、最終的にはホンダに解決策をプレゼンテーションします。

クルマを見るのも嫌になるくらい

学生は、大学で講義を受けているだけではありません。実際にホンダのディーラーに行つて『インサイト』に試乗したり、茂木や和光といった地域にあるホンダの施設も訪問します。ある学生は、和光デザイン研究所を訪れたときの感想を「デザイナーの、現場でのハートの熱さを感じ、圧倒された」と言っています。別の学生は授業を受けてみて「毎日、頭をフル回転させてクルマのことを考えていなければならぬので、自動車を見るのも嫌になるくらい」と語っていました。

厳しさは免れない、と思ってほしい

この授業を担当する富野貴弘准教授は、「最高の素材をホンダさんから提供され、普段、目にすることができないディーラーや社員の声を聞くことができる勉強の場を与えてくれた。この素材を活かして現場を学び、社会の厳しさを知ること、自分の頭で考え課題を発見できる人間になってほしい」と期待を寄せています。また現在、進学する大学を決めかねている高校生に対して、富野准教授から次のメッセージがありました。「勉強できる環境があるのは当たり前のこと。明治大学商学部は最高の素材を用意しているし、この最高の素材を料理できる環境も提供できる。そのかわり、厳しさは免れない」。

宣伝担当の原氏など、そうそうたる顔ぶれが揃いました。その講義の内容は、残念ながら明かすことができません。講義にはホンダの機密情報が含まれており、当然、参加している学生には守秘義務が課せられているからです。ただ、ある学生から講義を受けた印象について聞くことができました。『インサイト』がトヨタのプリウスに挑むのは、さまざまな面からみて相当厳しいと感じた。しかし『インサイト』の価格設定に、あの大帝國トヨタが追従して値下げしたことは事実。これはすごいと思う。（参加した学生）

たちもその期待に応えたい。これが高いモチベーションに繋がっています。」「この経験は将来、絶対に役に立つという自信があるからこそ、厳しくてもやっていける。正直なところ、この授業を受けている全ての学生が、自動車に興味があるわけではない。しかし、『ストイックに授業に取り組みたい』『幅広い知識を身につけたい』というモチベーションの高い学生ばかりです。みんな、リアルな現場を通じて学べるこの授業に、期待や希望を持って臨んでいます。（参加した学生）

VOICE OF STUDENTS



知るだけじゃダメ。具体案を示すことが重要だ。

この授業においては、「講義を聞いて詳しくなった」だけでは意味がありません。実際に、どうしたら『インサイト』の販売台数が伸びるのか、というような具体案を考えることが重要なのです。実際にホンダと共同し、プレゼンテーションすることで、「現場力」を磨くことができます。企業からリアルな評価を得ることで刺激を受け、それが自分を成長させることに繋がっていきます。

清野 力（商学部 3年）

CASE 9

本田技研工業株式会社（以下略ホンダ）のハイブリッドカー『インサイト』をテーマに扱う授業があります。ホンダ幹部と話し合い、社内のデータに触れ、普段は立ち入れない研究所や製作所の中に足を運ぶこともあります。授業の目的は、現場で使える問題発見力を養うこと。ホンダが求めているのは、大学生視点からのさまざまな提案です。

山田貴大／木村隆幸（商学部 3年）
Takahiro Yamada / Takayuki Kimura

ホンダと明大生の ハイブリッド授業



ホンダ社員からの『インサイト』についての熱い講義風景



夢中になって講義を聞く学生たち